



南阿蘇村買取型災害公営住宅 馬立団地

所在／南阿蘇村大字立野162番地

施主等／南阿蘇村



2016年4月の熊本地震は、熊本・阿蘇地域に甚大な爪痕を残したが当南阿蘇村買取型災害公営住宅馬立団地という創造的復興の第一歩となる作品を生み出した。棚田跡の緩い段差地形を活かした3地区に2戸1住戸が敷地に寄り添う配置、同地域の強い局所東風「まつぼり風」対策として南北方向に2戸をつなぐ通り土間を介した玄関口の配置、かつての集落の原風景を意識させる瓦葺の高い屋根と県産材を外観と室内に多用した温かみのある色彩、バリアフリーのスロープ、共有庭の設置、地域とのコミュニティーの円滑な形成のため広場と集会場を設置、北向山原始林を南面に臨む平屋住宅、3地区にまとめられた駐車場地下に雨水調整槽を設置するなど随所に限られた時間的・コスト的制約を克服しようとする南阿蘇村と設計・施工者の挑戦的な地域景観形成の意図と情熱を感じる。

[審査委員 金子 好雄]

